

# 平成29年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 北小倉 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	11.0	74	5.1	57	11.6	77	4.9	44
全国	11.2	75	5.2	58	11.8	79	5.1	46

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、北九州市の平均正答率を下回っていた。 ・書く力を問う問題に課題があり、相手意識や目的意識をもたせて文を書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・漢字を読むことができていた。
	努力が必要な問題	・漢字を正しく書いたり、発表が伝わりやすいように工夫して書く設問については、無回答が高く、正答率も低く課題がみられる。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、北九州市の平均正答率下回っていた。 ・内容を正しく読んだり、話の内容を関連付けながら、理由を明確にして自分の考えを書いたりすることに課題がある。
	よくできた問題	・スピーチメモを使うことのよさを捉え、文を書くことができていた。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて文を書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめて書いたりすることについて無回答が高く、正答率も低く、課題がみられる。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回っていた。 ・「量と測定」領域に誤答、「数量関係」領域に無回答が多く、課題がみられる。
	よくできた問題	・乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解することや乗法の計算ができていた。 ・二つの数の最小公倍数をもとめたりすることができていた。
	努力が必要な問題	・計算問題に誤答が多く、計算力を強化することや工夫して計算する習慣をつける必要がある。 ・任意単位による測定の意味を問う設問や二次表の分類整理に関する設問では、誤答・無回答が多く課題がみられる。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・全体的には、全国平均正答率を下回っていた。 ・自分の考えを記述する設問では、無回答・誤答が多く、課題が見られた。
	よくできた問題	・平均を求める式を判断することができていた。
	努力が必要な問題	・示された説明や情報を正しく読み取り、それを基に自分の考えをまとめて記述する設問では、無回答・誤答が多く、課題がみられる。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概

質問紙調査の結果分析
<p>○学校に行くのが好き、友達に会うのは楽しいと答えている児童が福岡県の平均を大きく上回っており、学校での生活や人間関係において安定した生活を送っている児童が多い。その一方で、朝食を毎日食べていない児童が平均よりもやや多く、「自分にはよいところがある」と感じている児童が平均よりもやや少ないことが課題である。</p> <p>○学習習慣については、「自分で計画を立てて勉強している」「家で学校の復習をしている」が福岡県の平均をやや上回っているが、「家で学校の宿題をしている」がやや全国の平均を下回っている。学習習慣においては、個人差が大きく、個別の指導が必要である。</p> <p>○読書については、「読書が好きだ」「1時間以上読書をしている」と答えている児童が全国の平均を上回っており、朝の読書タイムや家庭での取り組みが浸透してきている。</p> <p>○学校での学習は友達との間で話合う活動をよく行い、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると答えている児童が全国の平均を上回っており、話し合う活動が学習スタイルとして定着していると言える。しかし、話の組み立てを工夫したり、目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり書いたりすることが難しいと感じている児童が全国の平均を上回っており、授業改善が必要である。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>○各学級において、児童の発達段階を考慮し、ペア学習や班学習など、目的に応じて自分の考えを他の人に説明したり、他の人の考えを聞いて自分の考えを深めたり、広げたりする活動を今後も授業の中で積極的に取り入れる。</p> <p>○朝学習で視写を取り入れることで文章の書き方に慣れさせたり、1時間の授業の中に自分の考えを書くことを必ず位置付けたり、自分の考えもてるような発問の工夫をしたりするなどの授業改善を図る。</p>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○基礎基本を定着させるためにも、「北小倉小学校家庭学習の手引き」や「チャレンジハンドブック」を活用して、宿題の出し工夫したり、家庭での学習の在り方を改善できるようにする。</p> <p>○読書に対する高い意欲や関心を生かし、家庭でも読書をする時間がもてるように「読書の日」を設定するなど、家庭と連携して取り組む。</p>
---